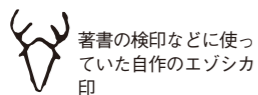
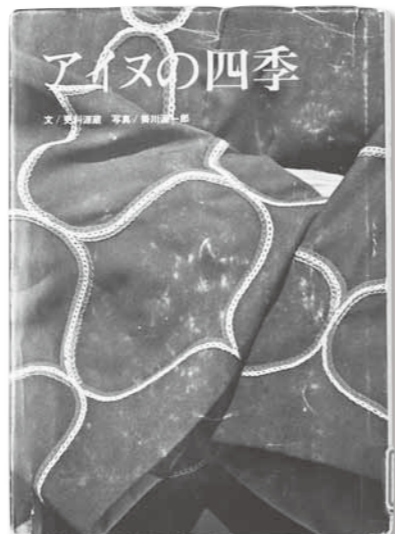




更科源蔵(さらしなげんぞう)
●1904(明治37)年、弟子屈町熊牛原野(南弟子屈)に生まれ、1985(昭和60)年に81歳で逝去。東京麻布獣医学校を中退した後、尾崎喜八、高村光太郎に師事し、詩作を中心に郷土史、アイヌ文化研究など主に文学活動を続けた。
▶弟子屈町で所蔵しているさまざまな資料を紹介する。



『アイヌの四季』(昭和42年刊)



『アイヌの四季』(昭和43年刊)

写真家・掛川源一郎とのコラボレーション

掛川源一郎は、1913(大正2)年に室蘭町(当時)で生まれ、その後千葉高等園芸学校(現在の千葉大学園芸学部)に入学します。在学中は写真に熱中し、卒業後は雑誌社の編集記者兼カメラマンとして活動しました。太平洋戦争の最中に北海道へ戻り、戦後は伊達高校で生物の教員を務める一方、写真同好会を結成して写真撮影の技術を磨きました。

多くの写真集を刊行し、道外の人々がイメージする、のどかな北海道ではなく、北海道を内側から見つめ、あるがままの姿を映し撮った作品に仕上げられています。

更科との共著には『アイヌの神話』(1967(昭和42)年刊)、『アイヌの四季』(1968(昭和43)年刊)があります。掛川源一郎が更科の文章の意味を十分に理解して撮影した写真は詩情豊かで、更科の意図したところがひとときわ際立ってきています。

『アイヌの神話』では、アイヌの人々にとって神々とは何であるのか、不可解な神の姿を探るため、古老たちと神の住むといわれる洞窟に火をたき、山の尾根に獲物を追いかける、荒波の湖や海で遭難しかけな

がらも自然と対峙する中で、おぼろげながらもアイヌの人たちが恐れ敬う神の姿を垣間見ます。

『アイヌの四季』では、四季の移り変わりを「雪解けの季節」「大洋の季節」「川の季節」「冬山の季節」「工芸の曙」の章に分け、アイヌコタンの人々がどう生きてきたかを探っています。

これらの文章を書くにあたって更科には「このよき隣人のこの上なく加えられている不当な評価を何とかして正しい位置に戻したい」との思いがありました。アイヌの人々に対する「自らの無知と怒りを感じ、いつの日にかこの人たちの文化の本来の姿を、世界の人々に知ってもらうために、自分の生涯を賭けようと悲願をたて」という屈斜路コタンの生活から、40年近い調査研究の歳月が過ぎようとしていたのです。

そして更科は、アイヌ民族の文化の謎は「何でもなし、すべては自然の中で生きる」ということである「また、コタンに生きた人たちの姿を正しく理解することは、これもまた何のことはない、日本の古代文化を理解することにも役立つことでもある」と気づきます。



図書館だより

中央2丁目4番1号
☎(よいほんいろいろ) 482-1616

☆古雑誌をお譲りします

保存期間が過ぎた図書館の雑誌を提供します。

図書館では、定期購読している雑誌の保存期間を3年間としています。3年を経過したものは処分となりますので、今回は2010(平成22)年に刊行された雑誌が対象です。

※お一人様3冊までを目安にお選びください。

※先着順のため、取り置きのご希望にはお応えできません。

▼提供期間/1月7日(火)から、対象の雑誌がなくなるまで。

▼場所/図書館内展示コーナー

☆新年は1月7日から開館

▼年末年始の休館日/12月30日(月)~1月6日(月)

新刊案内

- 「小路幸也少年少女小説集」 小路 幸也/著
 - 「雨のなまえ」 窪 美澄/著
 - 「アルプ」の時代」 山口 耀久/著
 - 「疎開した四〇万冊の図書」 金高 謙二/著
 - 「迷惑行為はなぜなくなるのか?」 北折 充隆/著
 - 「メイド・イン・ジャパン逆襲のシナリオ」 NHK取材班/著
 - 「捨てられない服の片づけマジック!」 横森美奈子/著
 - 「リフォームのコツと基本」 主婦の友社/編
 - 「ぼくらの街にキリンがやってくる」 志茂田景樹/著
 - 「おさかないちば」 加藤 休ミ/作
- たくさんのお待ちはお待ちしております!

笠原将弘のやみつき極上なべ

笠原 将弘/著
「なべでもやろう!」は、冬のあいさつがわり。一人で食べても、みんなで食べても、なべはいつでもあったかい。定番具材から驚きの組み合わせまで、毎日食べたくなる笠原流・極うまなべ大集合!今夜はなべにしよう!!

おすすめの新聞

EMC通信

~川湯の森から~



親子でスノーシュー

何かと、飲み過ぎたり食べ過ぎたりする機会が多い時期。「ちょっと身体が重くなってきたかな」と感じていた方もいらっしゃるのでは?ただでさえ、寒くなる外で運動をするのがおっくうになりがちですよ。

雪が積もったからといって、強い味方の登場です。その名はスノーシュー。西洋式のかんじきと言われ

スノーシューで外へ飛び出しましょう!

行っていますので、少しでも興味を持ったなら、まずは体験しにいらしてください。靴を履いた上から装着するだけ。初めてでも心配ご無用、すぐに慣れます。おすすめコースもご案内しています。

お子さんから年配の方まで、気軽に雪遊びを満喫できるのがスノーシューの魅力!樹木の葉が少なく、鳥や動物の気配を身近に感じられます。雪上に残る足跡からは、大きな方向を観察することで行動を想像する楽しみもあります。もちろん、何も考えずに雪原を歩くだけでも...

1年の半分近くを雪の中で過ごしていますが、あつという間に時は流れてしまいます。春になってから後悔しないように「スノーシュー、いつやるの?」「今でしょ!」

全面結氷なるか!? 摩周湖・屈斜路湖

摩周湖は毎年、全面結氷するとは限りません。ここ10年間の確率は5割。凍ったとしても2月に入ってからで、2005年は3月でした。屈斜路湖は毎年、結氷しています。ただし、2007年を除いて。この年は、湖畔で生まれ育った高齢者が「凍らない屈斜路湖を初めて見た」と言って大騒ぎでした。2013年は両湖とも結氷、とくに屈斜路湖は最速の1月11日でした。さて、2014年の状況は?当センターのブログなどで報告していきます。



全面結氷した摩周湖

川湯エコミュージアムセンター(EMC) ☎483-4100
URL http://www6.marimo.or.jp/k_emc/ 1月は9:00~16:00開館(水曜日、12/29日)~1/3(金休館)